

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
教育課程概説 An Introduction to Curriculum		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(保育士養成課程必修、教職課程必修(幼稚園教諭二種))	こどもフィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
教育原理、保育原理				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士資格、幼稚園免許取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
小林研介	講義棟1階	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」が示す教育・保育内容、教育・保育課程の変遷、教育・保育課程の編成の要件と手順、指導計画と祖の作成、教育・保育の評価などについて講義し、幼児の「生きる力」を育むカリキュラムの方向性を考える。				
授業の目標				
①教育課程の必要性、教育課程編成の目的を推論することができるようにする。 ②教育課程編成の基本原則と方法を理解し、指導計画を作成することができるようにする。 ③幼稚園教育要領改訂の編成を理解したうえで、教育課程と保育現場の実際、日常の保育についての仮プログラムマネジメントの重要性特徴を述べるようにする。				
授業の方法				
講義やディスカッションも交え、映像教材や事例研究を通して検証していく。				
学習の成果(学習成果)				
教育課程はなぜ必要かを考え、年齢・発達に即した指導計画を作成することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	授業の方法と目的を確認し、成果の説明を受ける。			
第2回目	教育課程(全体的な計画)とは。 — I — 子ども主体の保育を考える			
第3回目	教育課程(全体的な計画)とは。 — II — 教育要領を捉える			
第4回目	教育課程と法令を知る。			
第5回目	教育課程(全体的な計画)の作成…乳児編。			
第6回目	教育課程(全体的な計画)の作成…3歳児編。			

第7回目	教育課程（全体的な計画）の作成…4，5歳児編。
第8回目	教育課程（全体的な計画）と教育実習との関係。
第9回目	教育課程（全体的な計画）と日常保育との関係。
第10回目	現代の子どもの教育課題を考える。
第11回目	早期教育を考える。
第12回目	教育課程の歴史的変遷。
第13回目	各園の実際の教育課程から学ぶ。
第14回目	生涯教育と幼児期の関係。
第15回目	幼稚園教育要領を基準とした教育課程編成の基本原理や、実情に合わせたカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を確認する。
事前・事後学習	幼稚園の教育課程や保育園の保育課程をいろいろな方法で調べておく。作成した指導計画は大切に保管する。

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	50%	指導計画の取り組みにおいて、積極的な取り組みが見られることと、望ましい活動の様子が確認できていること。
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験	50%	講義内容に対する理解がなされ、的確な回答が記述されているか。
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

教育課程総論（北大路書房）、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

履修上の留意点・ルール

私語が多い場合は退席させるときもある。

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
教育課程概説 An Introduction to Curriculum		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(教職課程必修(栄養教諭))	栄養の教職課程履修者のみ受講可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
松崎勇人	本館2階	月曜・水曜・金曜の講義のない時間		授業中に指示します
授業の概要				
教育の目的と教育課程の関係を理解する。教育課程の意義を理解する。教育課程の類型を理解し、その編成方法と評価を理解する。我が国の教育の歩みと教育課程の変遷について理解し、外国の教育課程改革の動向を理解する。カリキュラム経営について理解する。カリキュラムを作ることを体験する。				
授業の目標				
①教育課程の類型や編成方法や評価方法について述べるができるようにする。 ②日本の教育課程の編成過程や歴史や諸外国の教育課程改革の動向について述べるができるようにする。 ③カリキュラム経営について要点を述べるができるようにする。 ④日本の教育課程の課題について述べるができるようにする。				
授業の方法				
黒板やプリントを使っての説明を行う。実践事例に触れる。また、教育に関するテーマについて討論したり、基本的問題を解いて発表することを行う。講義者が、それらの学生の見解を尊重しながら、幅広い観点からそれを補い、深める。学生が自分でカリキュラムを作り、評価する活動を取り入れる。				
学習の成果(学習成果)				
(1)教育課程の類型や編成方法等について述べ、目的に応じて使い分けることができる。 (2)カリキュラムの歴史や意義、今日的課題について述べるができる。 (3)カリキュラムを作り、それについて評価ができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス			
第2回目	教育課程とは何か			
第3回目	教育課程の意義、教育課程の諸側面(隠れたカリキュラム)			
第4回目	経験中心カリキュラム、教育課程の編成方法			
第5回目	学問中心カリキュラム、教育課程の編成方法			
第6回目	教育課程編成論、タイラーとブルーム			

第7回目	日本の教育課程行政の基本、個性尊重の教育課程	
第8回目	真正の評価とパフォーマンス評価、レポート課題の説明	
第9回目	教育課程の経営と評価（カリキュラムマネジメント）	
第10回目	日本の教育課程改革の歴史、戦前	
第11回目	日本の教育課程改革の歴史、戦後の民主化	
第12回目	日本の教育課程改革の歴史、系統性、人間性の重視	
第13回目	日本の教育課程改革の歴史、生きる力、活用能力の重視	
第14回目	諸外国の教育課程改革の動向	
第15回目	学生による課題の発表とそれへの講評	
事前・事後学習	講義のポイントを復習すること、宿題をすること。	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
		評価の基準
授業参加態度	30%	最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に的確に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられるなどである。
レポート	70%	レポートを提出する。評価基準については講義中に述べる。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書：田中耕治他著、『新しい時代の教育課程』、有斐閣、1,900円+税、及び自作プリント等を使う。参考書は講義内で指示する。		
履修上の留意点・ルール		
休まないこと。真剣な態度で講義に臨むこと。私語をしない。積極的に質問すること。		